

2004年(平成16年) 7月1日木曜日(毎月1日発行) 1部50円(消費税込・送料別) 発行所/天台宗出版室 発行人/出版室長 工藤 秀和 〒520-0113 大津市坂本4-6-2 天台宗務庁内 電話 077-579-0022 (代) Eメール/T-Press@tendai.or.jp

一隅を照らす運動推進会報 (一隅推進会員) 年度会費(2500円)中に会報(天台ジャーナル)購読料を含む。

極微 ごくみ

年々地球が暖かくなっている。この冬の暖かさも相当なものだった。かつての子どもの頃の寒さが懐かしいくらいだ。もともと暖かくて喜んではばかりはいられない。地球の温暖化は異常気象を呼んでいる。世界各地の洪水や干ばつ、南極

や北極の氷山の溶解、高山の氷河の衰退等々。南太平洋では海の水位が上がって島が無くなりかけている。各分野でグローバル化の音が叫ばれているが、地球環境の面でも国を越えた対策が急務だ。経済発展も高度情報化も地球が滅んでは意味がない。

天台宗ニューヨーク別院

初のアメリカ本土開教拠点

森定延暦寺執行大導師により地鎮祭



六月八日、米国ニューヨーク州イースト・チャダムの「天台宗ニューヨーク別院」で本堂の地鎮祭が厳修され、日本天台宗来賓や、檀信徒はじめ関係者約七十名が随喜した。同別院の開真・ポール・ネエモン住職は一九九五年に「カルナ・天台・ダルマセンター」を設立。以来、家畜飼料小屋を改造した仮本堂で、仏教についてのディスカッションや、坐禅止観を毎週欠かさず行なってきた。本堂は明年に完成の予定であり、天台宗では初めてアメリカ本土での本格的な開教のスタートを意味する。

天台宗のアメリカにおける海外伝道は、ハワイ別院(荒了寛住職)がよく知られているが、日系移民の人々を対象とした仏教から、完全にキリスト教の文化基盤にある現地社会の人々を対象にしていかなければならない時代に入りつつある。

そこで、天台宗海外伝道事業団(杉谷義純理事長)では、四年前、現在地にネエモン師を支援するために借地であった境内地三万九千坪を取得。その後、ニューヨーク別院は天台宗と正式に包括関係を結んだ。

住職のネエモン師は、米国にて二十年ほど禅を研究し、一九八九年より医学、生物学、人類学の研究のため来日。研究のかたわら、仏教の勉強を続け、大正大学の一島正真教授を戒師に得度している。一九九四年にニューヨークに戻り、ダルマセンターを設立、布教活動を開始。二〇〇一年には比叡山行院にて四度加行を遂行。現在サイモンズ・ロック大学にて仏教及び日本文化を講義し、また、

信者とともに英語の般若心経を読誦するネエモン住職

信者とともに英語の般若心経を読誦するネエモン住職



地鎮祭で穴中作法を行う 森定慈芳延暦寺執行

ネエモン住職に期待

ニューヨーク別院は約三年前に天台宗と包括関係を結んでおり、信者は百五十人ほど。ネエモン住職は「宗門と密に連絡を取って、北米の

から始まる本堂と将来には行院となる修行道場の建設説明が行なわれた。

一大拠点にしていきたい」と語っている。 森定延暦寺執行は「ニューヨーク別院は、豊かな自然に恵まれた素晴らしい場所である。天台宗が、日系移民ではなく、現地の人びとに布教するのは初めての試みであり、システムの確立や、宗門と密接に連絡を取りつつ、住職への適切なアドバイスが必要である。ネエモン住職の今後の精進に多いに期待したい」と語っている。

素晴らしき言葉たち Wonderful Words

自分に対して自信を持ち、いつも自分が向上することを考えていけば、人をいじめる暇などないはず。そして、他人に自分とは異なるものを見つけたら、むしろその異なる人が、いったいなにを考えているんだらうと思つて、もう一度、自分の生き方を反省するのが、私は人間のあるべき姿だと思つてます。 『梅原猛の授業 道徳』 梅原 猛著 朝日新聞社刊

自分と違った人を前にすると不安になるのが人間だといわれます。その人を排除するのがイジメであり、認めるのが友達になることだといえるでしょうか。 特に日本人は他人と同じだと安心し、自己の考え方を積極的に主張することが苦手です。長いものに巻かれたり、画一性の中に埋没する心地よさにどっぷりと浸っているのです。しかし、それはホンネとタテマエ、面従背反という陰湿さと紙一重になりがちです。 一方で、違う価値観を共有するには、とことん話し合わねばなりません。これは、忍耐力のいるしんどい作業です。日本人なら、黙っている方がラクだと思つてしまう。 それでも、間違つたことを黙認していることは、もはや許されないことを私たちは知っています。 今日、個性と創造性を発揮せよと声高い主張がなされていますが、その前にお互いを理解することの方がよほど大事です。異質なものも排除せず、まず理解しようとする試みから入りたいと思います。



鬼手仏心

骨から見る

天台宗出版室長 工藤 秀和

私は、時々、骨になります。もう、自分は生きていないのだと仮定して、骨の立場から、ジッと世間を眺めるのです。こうすると、今までとは全く違う世界が見えてきます。

実は、骨になることを、私に教えてくれたのは詩人の中原中也です。彼は、こんなふうに書いています。

「ホラホラ、これが僕の骨―見てゐるのは僕？可笑しなことだ。霊魂はあとに残つてまた骨の処にやって来て、見てゐるのかしら？」『骨』。

生きる、ということ、常に自分を勘定に入れること、他人よりは、たくさん

「無視されるのはイヤだ」「病気はせずに長生きしたい」などの様々な思いで、人は暮らしています。

ところが、骨になってみると、肉体は、この世に存在していないのですから、個人の欲が入る余地がありません。ですから、あくせく動いている浮世を冷静に見ることができま。自分は、もう存在していないけれど、その他は、普段通りの生活が営まれている日常を想像してみてください。普段は気をつけていない光も、緑も、水も新鮮です。「ああ、有り難いな、美しいな」と感じます。全然関係のない他人でも「幸せに生きて欲しいな」と思います。まして自分がこの世に残した(?)家族たちならなおさらです。自分を勘定のラチ外に置いてみると、ものの善悪もよく分かります。この世のものはみないとおしく、輝いています。そのことを満喫した時点で、私は骨から人に戻ります。そうすれば、せつかくの生命をもらっているのだから、今日も精一杯楽しく生きよう、他人を非難したりしないようにしましょう、というポジティブな意識が芽生えます。

「恰度立札ほどの高さに、骨しらじらととんがつかつてゐる」『同』。

花想風言

木漏れ日も射しこまない薄闇の斜面にほの白くキノコのような姿を見せるのがギンリヨウソウだ。長野県飯山市の私が住職をする寺の裏山の薄暗い林に、夏の訪れを告げるかのようにまとまって咲く。イチャク草科の腐生植物で、高さ10センチほど。花の下に魚の鱗のような葉がある。キノコとも似つかない真つ白な姿を幽霊のようだと思味悪がる人が多い。腐つた落ち葉や枯れ枝を養分にして育つから葉緑素を

銀竜草

第4回 福田徳衍(文・写真)

ぎんりょうそう

取り入れて光合成をする必要がないのだろう。ヒマラヤ山地から千島列島、アジアの各地に分布、下向きに咲く花の姿を竜の頭に見立てて名がついた。信州の方言では「ユウレイタケ」とよんでいる。寺の世話人に食べられますか？と聞いたら「おっさま、これをへえ、食うのかい？毒ではないが、味はないからよ」という返事だった。

◆プロフィール
一九三六年東京生まれ。十歳から二十二歳まで比叡山で小僧生活をして過ごした。元朝日新聞社記者。信越教区新潟部・徳法院住職。俗名 福田 徳郎。

『全ては大きな繋がりの中に』



以来、多様な表現で仏像を制作してきた。しかし、制作中に自分の意志を超えて、造られるような場合もある。その時は、自分の中に閉じこめられていた「何ものか」が、開示されたように思うという。「仏像は単に仏教の範囲にとどまるものではなく、そこを突き抜けた処に到達せねばなりません」。その底には、仏教の教えに基づく深い人生観がある。「仏教は理詰めではありません。宇宙全体は、みな繋がっており、それぞれ必ず価値を持っています。私は宇宙に繋がり、宇宙は私に繋がっている、その繋がりの中で物事を考えるということが、私にはピタッときます」。



力見つけ! 縁信

仏像を彫る

は、仏像をいかに現代風に表現するか、ということなんです。幾世代にも亘り、無数の人々によって造られてきた仏像に流れる生命を自らの手で現出し、後に伝えたいという。

伊藤氏がそもそも仏像と出会ったのは三十数年前のパチカಂಡだった。キリスト教文化圏の中に秘蔵されていた阿弥陀如来像に強烈な感動を覚えたとい

「仏像を彫つてみたいと思う動機は人それぞれです。難しく考えなくても、仏像を彫ること、その人の気持ちや落ち着き、新しい世界への入り口にしてもらえたら」。

東京・仏像彫刻家 伊藤 光治郎 さん

東京の下町、亀戸にある自性院には様々な仏様が随所に安置されている。自作の仏像を介して檀家さんと仏教問答をすると言う古宇田亮文住職。仏像を彫り始めて二十年ほど経つ。その古宇田住職が師と仰ぐのが仏像彫刻家の伊藤光治郎氏(59歳)。

青梅市の外れ、埼玉県との境に近い山の中に伊藤氏はアトリエを構える。時たま谷間に響き渡るうぐいすの鳴き声ぐらいで、他の音はしない静かな里である。「私が今考えているの



(上) 伊藤夫妻と古宇田亮文住職
(下) 伊藤氏が彫った地藏菩薩立像



談話室



神奈川教区・仏青 30年続くテレホン法話 045(681)1322

団結も研修もNo!だ

仏教青年会は、各教区ごとに組織され、それをまとめた天台仏教青年連盟がある。次代を担うお坊さんたちの集団だが「青年」といっても、世間ではいさば中堅以上の実力者たちである。各地方の仏青の活動は、連盟よりもユニークなものが多い。例えば、神奈川仏青では、仏青創立以来、三十年受け継がれている活動にテレホン法話がある。「継続できる活動」ということで、決定された。週に一度、新しい法話を作るのは大変だと思いが「滞ったことはない」と福寿亮賢現会長。幹事会の六月二十三日、会場の円満寺を訪ねたが、十数名の会員が、お盆の法話チェックに余念がなかった。「ほどこし、じゃなくて供養じゃないの」「僧はやめて修行僧たちにしようよ」。会員の書いた原稿に、次々と意見が出される。「お盆は帰ってこられるご先祖さまを供養する期間ですが、同時にこの世に生きている人も故郷に帰ってきます」というところなど、ツボを押さえていて感心する。

「書いたり、意見を出し合うことで日常法話の勉強になる。毎日の寺院活動のトレーニングです」とは田畑英真

仏教の

散歩道



ひろ さちや

作家。様々な問題点を、仏教的視点から、切迫した口調で、持著の『新潮』に

昔の日本では、結婚式の前夜、花嫁の実家で花嫁が使用していた茶碗を割る風習がありました。じつは、この風習は葬儀のときにも見られます。死者の棺を送り出したあと、死者が生前に使っていた茶碗を割ってしまうのです。

おそろくこれは、花嫁や死者に対して、
「二度とこの家に戻ってくるな！」
と言っている意思表示であり、おまじないだと思われま

すし、花嫁も離婚になって生家に戻って来るのはよくないこと

です。

ところで、佐藤俊明著の『心』にのこる禅の名話(大法輪閣)には、次のような話がありました。

北野元峰禅師(一八四二〜一九三三)は、大本山永平寺の第六十七世の貫首です。彼が二十歳のとき、東京で修行中の彼の所に母危篤の電報が届き、彼は急いで福井県の実家に帰りました。幸いにも母の病氣は快方に向かい、元峰は再び東京に戻ります。

そのとき、彼は両親にこう挨拶しました。
「わたしは立派なお坊さんになるよう努力します。もし万が一、わたしが墮落坊主になったら、二度と再びこの北野家の敷居はまたぎません」

すると、それを聞いた母親が言います。
「これこれ、そんなことを言うもんじゃないよ。おまえさんが墮落坊主になったら、なおさらこの家に帰ってきてもらわにやならん」

名僧知識になったなら、大勢の人が慕ってくれます。だが、墮落坊主になれば、誰一人相手にしてくれません。淋しいでしょう。そんなときこそ、この家に帰っておいで。母はおまえがどんな人間になっても、また

どんなときでも、おまえをやさしく迎えてあげる。大手を振って玄関から入れないときは、窓からでも入っておいで。母は息子にそう言い聞かせました。

わたしはこれを読んで、すっかり考え込んでしまいました。「離縁されるなよ。二度と実家に戻ってくるな!」も、ひとつの愛情表現です。しかし、「つらくなったら、いつでも戻っておいで」も、違った意味での愛情表現です。では、どちらがすばらしい言葉でしょうか? あら、あなたはどちらが好きでしょうか……。

ですか?
仏教には「愛語」と言った言葉があります。慈悲の言葉です。ほとけさまの言葉です。わたしは、親が子どもに、「立派な人間にならなさい」と言うのが愛語だとは思いません。「あなたがおまえの味方だぞ」とお父さんはおまえの味方だぞに愛情表現です。しかし、「つらくなったら、いつでも戻っておいで」も、違った意味での愛情表現です。では、どちらがすばらしい言葉でしょうか? あら、あなたはどちらが好きでしょうか……。



(カット・伊藤 梓)

Information

比叡山宗教サミット17周年

『世界平和祈りの集い』

8月4日(水)

15:00~

法楽

平和祈願文

天台座主陛下

15:30~

平和の鐘

平和の祈り(黙禱)

平和を語る

平和の合い言葉唱和

事務局長。「声明だって、法要だってひとりでは練習出来ない。会員どうしの悩みも聞いて、それぞれ体験的アドバイスもする」。仏青は、相互交流と扶助の組織でもあるのだ。

テレホン法話は、半年に一度、厳選した十二編を「菩提樹」という小冊子にまとめ、教区に配付する。更に五年から十年をめどに、一冊の本にする。現在第六巻を発刊した。少子化による檀信徒減少の問題なども話し合う。「檀家さんや信者さんと本音で話せる関係を築き、仏の教えをきちつと説くことしか、解決の道はないのではないか」。

托鉢や研修会も活発に行っている。「神奈川仏青は燃えていますよ」とは西郊良貴親睦担当会員の弁。平成十八年には、恒例の東日本天台仏青親睦野球大会も当番である。「団結も研修も遊びもナンバーワンだ」と断定するのは大久保信祥前副会長である。



檀信徒の皆さまへの発送を代行します

本紙は、4月23日付で第三種郵便物に認可されました。認可により、全国への発送料が一律に60円という割引料金が適用されます。この機会に、是非檀信徒の皆さまにも配布を頂きたく、定期購読のお願いを申し上げます。

なお、毎月の発送が煩雑とお考えの御寺院様のために、天台宗出版室では発送業務の代行をいたします。詳しくは、出版室にお問い合わせ下さい。

お問い合わせ

〒520-0113 滋賀県大津市坂本4-6-2
天台宗務庁 総務部 出版室
☎ 077-579-0022 FAX 077-578-4814

電話システム機器・FAX・携帯電話・パソコン
放送・映像機器・防犯監視・警報機器・設計・施工

N T T 西日本電信電話株式会社代理店 システムコンサルタント

共立通信機工業株式会社

代表取締役 村井 博

〒600-8875 京都市下京区西七条石井町30-19

TEL (075) 321-1333 (代) FAX (075) 313-7449
E-mail kyouritsu@dab.hi-ho.ne.jp

総本山延暦寺
天台宗務庁
御用達



A Story in the Tendai

さくらんぼ

桜桃の実る頃、蔵王のホームで

山形・蔵王やすらぎの里 柳生 法雄・貞孝 夫妻

仏と生きる

Vol.7

「戦争で、何人も殺した」と語る男性がいた。数度の結婚と離婚を繰り返して複雑な人間関係を抱えた女性もいた。「実は、文字の読み書きができない」と打ち明けた老人もいる。そうかと思えば「明治四十四年生まれ。百歳まで生きる」と明るく語るお爺さんもいる。ここ山形県の社会福祉法人妙光福祉会「蔵王やすらぎの里」の軽費老人ホームには、ひとつの家族のように肩を寄せて生きてゆこうとする人たちがいる。そんな人々を家族のように世話し、見守るのが、総施設長の柳生法雄と妻の貞孝を中心とするスタッフたちである。

さまざまに人生の大家族



自由にやりたいと思うようになった。そうすれば、利用者も良い施設を選べる。自信はあったが、今のうちに福祉がブームとなり、企業が競って進出してきた時代ではない。当時、福祉事業は公立以外が手を出す世界ではなかった。肝腎カネの銀行は、なかなか資金を貸してくれない。その信用を得るため、法雄は柳生家の養子になった。土地探しが始まり、予定地の確保と法人認可申請までの二年間に、桶川と山形を往復する車の走行距離は、十二万キロになった。こうして昭和

理屈では、心を開けない

◎死はタブーではない◎

今、軽費老人ホームには約五十人が暮らす。ここには「死」は常に横にある。タブーではない。当初、施設側は、死者が出ても「利用者に動揺があるのでは」と隠していた。しかし、そのことはすぐに知られる。逆に「誰か、亡くなったのか教えて欲しい」という情報開示の希望が強く、それから、亡くなった人があれば、朝食時に発表している。そして、お盆には利用者全員が妙光院にお参りして物故者の冥福を祈るのである。ここで暮らすうちに、職員も利用者も大きな家族になっていくのだ。

「死」は常に横にある。タブーではない。当初、施設側は、死者が出ても「利用者に動揺があるのでは」と隠していた。しかし、そのことはすぐに知られる。逆に「誰か、亡くなったのか教えて欲しい」という情報開示の希望が強く、それから、亡くなった人があれば、朝食時に発表している。そして、お盆には利用者全員が妙光院にお参りして物故者の冥福を祈るのである。ここで暮らすうちに、職員も利用者も大きな家族になっていくのだ。

◎21グラムの重さ◎

福祉は、質が問われる時代に入った。今では、すっかり元気がなくなった貞孝の父・柳生最田が理事長をつとめる(社)妙光福祉会は蔵王に指定介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)、在宅介護支援センターを加え、「寒河江やすらぎの里」には介護老人保健施設指定通所リハビリテーション、痴呆高齢者グループホームを経営する。寒河江には保育所も作った。職員が安心して働けるためである。いずれの施設も外観は清潔な病院というイメージである。

明日は、寿司を食べに行く日なのだ、みなではしゃいでいた。また、あと二週間す



清潔な病院を思わせる。蔵王やすらぎの里の外觀

「福祉は心だ」。その思いで、また利用者を見てみれば、みなここに来るべくして来た人々だった。そして、また、おそらく自分自身も……。すべては自分のためなのだ。利用者も、自分も、みんな、いとおしい、そう思った時に、この生き方ではないのだと悩みが消えた。その時、総施設長の夫と総務担当の彼女は、仕事でも人生でもパートナーになったのである。

「死」は常に横にある。タブーではない。当初、施設側は、死者が出ても「利用者に動揺があるのでは」と隠していた。しかし、そのことはすぐに知られる。逆に「誰か、亡くなったのか教えて欲しい」という情報開示の希望が強く、それから、亡くなった人があれば、朝食時に発表している。そして、お盆には利用者全員が妙光院にお参りして物故者の冥福を祈るのである。ここで暮らすうちに、職員も利用者も大きな家族になっていくのだ。

「死」は常に横にある。タブーではない。当初、施設側は、死者が出ても「利用者に動揺があるのでは」と隠していた。しかし、そのことはすぐに知られる。逆に「誰か、亡くなったのか教えて欲しい」という情報開示の希望が強く、それから、亡くなった人があれば、朝食時に発表している。そして、お盆には利用者全員が妙光院にお参りして物故者の冥福を祈るのである。ここで暮らすうちに、職員も利用者も大きな家族になっていくのだ。

福祉は、質が問われる時代に入った。今では、すっかり元気がなくなった貞孝の父・柳生最田が理事長をつとめる(社)妙光福祉会は蔵王に指定介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)、在宅介護支援センターを加え、「寒河江やすらぎの里」には介護老人保健施設指定通所リハビリテーション、痴呆高齢者グループホームを経営する。寒河江には保育所も作った。職員が安心して働けるためである。いずれの施設も外観は清潔な病院というイメージである。

明日は、寿司を食べに行く日なのだ、みなではしゃいでいた。また、あと二週間す

お便りを下さい

あなたの周りでの出来事、ご感想をお送り下さい。また、取材について「こんな出来事、あんな人々」をお知らせ下さい。封書、FAX、Eメールで、天台宗出版室まで。連絡先は、題字横です。FAXは、077-578-4814

文・天台宗出版室編集長 横山 和人

開宗1200年慶讃大法会記念

初めての合同訪中団

東海・三岐・滋賀の三教区

六月八日から十一日まで、伝教大師入唐千二百年を記念して、滋賀教区(長山慈信所長)・三岐教区(宇野光道所長)・東海教区(村上圓童所長)が、天台宗清浄寺参拝団を結成し、三教区所長を団長に約百五十名が中国を訪れた。



国清寺にて桜の木の植樹を行う教区代表

今回の訪中では、天台宗国清寺・眞覺寺・石城寺での法要や、允観監院に面談した。また現在、中国では植林事業

無限の可能性を持つ教育空間 駒込学園新校舎落慶
東京・駒込学園(末廣照純校長)では、かねてより建設中であつた新校舎が完成し、六月二十四日に落慶式が行われた。



指針を示された。今回、校舎という器が完成した。今後は、一隅を照らす人材が育つよう、教職員、生徒一体となつた教育を望みます」と祝辞を述べた。

寺への植樹を依頼した。そして、その象徴の意味を込めて各教区より国清寺随塔横に桜の木が三本植樹された。

新たに大僧正・権大僧正補任

平成十六年度の大僧正・権大僧正の補任辞令親授式が、去る六月十四日、延暦寺書院で挙行された。

- 大僧正 (該当者は次のとおり。六月十四日現在)
【滋賀】長壽寺・藤支慈道師 行満坊・岡本台照師【京都】
浄蓮華院・安本寂峯師【兵庫】
高藏寺・福井邦準師【岡山】
石山寺・加藤圓真師【北陸】
光照寺・白崎良典師【神奈川】
天徳寺・安居院惠龍師【埼玉】
釈迦寺・森田幸雄師
権大僧正
【兵庫】妙樂寺・下田知源師
善法寺・中野寶元師【岡山】
國分寺・田中孝照師 西法寺・岡本光純師【四国】 福樂寺・米谷静俊師【九州東】 靈仙寺・青山良安師 猪鹿狼寺・石光孝照師【九州西】 妙覺院・灰塚玄壽師 妙観院・今泉慶正

教区が活動を展開していかねければならない。目的が同じならば教区の垣根などに拘ることはない」と語り、宇野所長も「開宗千二百年慶讃大法会の期間中特別授戒を受け、日本天台の元となる中国で法要に参加し、自らの内にある仏を実感することができた。檀信徒も感動を覚えている」と今回の訪中を高く評価している。

寺院と檀信徒の相互交流

今回の参拝団は、檀信徒参加型の事業であり、各教区寺院と檀信徒の交流も目的の一つであつた。
今後も各教区の垣根を越えて共同の活動を行っていく過程で、未檀信徒とも交流の輪が広がり、天台宗に一人でも多くの檀信徒が増えればという願いも込められている。

祝新住職任命

- 【埼玉・文殊寺】岩井良啓師【埼玉・景元寺】岩井啓一師【神奈川・増福寺】寺田良則師【群馬・清泉寺】池ノ谷正寛師【兵庫・圓藏寺】永井快香師【群馬・觀月院】竹田暢晋師【陸奥・達谷西光寺】達谷窟敬祐師【※東海・宝林寺】多々芳照師
(※東海・宝林寺は、非法人寺院設立による住職任命)
(平成十六年五月二十一日)
六月二十一日 法人部調べ)

第2期 續天台宗全書 全十巻 予約購入募集中! 天台宗特価
新発売
入手困難な佛典の画期的翻刻印刷 天台宗典編纂所編 春秋社刊行
第1回配本 宗要光聚坊 上
天台宗典編纂所 FAX 077-579-6639
ぜひ寺院に1セットお備え下さい
お問い合わせ 天台宗典編纂所 電話 077-578-5190
第1期全15巻は完結終了しました。有り難うございました。

カンボジア平和友好賞を受賞

国王・政府より勲章授与される

山田能裕師

WCRP日本委員会難民委員会の山田能裕委員長(比叻山延暦寺長)に、カンボジア国王と政府から「カンボジア平和友好賞」が授与された。山田委員長の二十数年にわたるカンボジア難民へ救済活動のみならず、宗教や伝統文化、教育復興への貢献が高く評価された結果として、関係者に喜びが広がっている。受賞は、昨年度に決定していたが、SARS問題のため、授賞式は本年二月二十四日にプノンペンで行われ、平和友好賞勲章がカンボジア総理大臣代理のチャ・サヴァーン宗



授賞式で。左隣はチャ・サヴァーン宗教大臣

教大臣により山田委員長に授与された。

カンボジア難民への救援活

動は、一九七九年の第三回世界宗教者平和会議(アメリカ・プリンストン)においてその

悲惨な状況が報告されたことから、翌八十年に協力を要請を受けたWCRP日本委員会は、タイ・カンボジア国境の難民村に第一回の調査団を派遣し

て支援活動を本格化させた。この時参加した七委員のひとりとして山田委員長(当時は青年部会幹事)の活動は始まった。

調査団は、民族自決が起こったカンボジア国境・ソクサン村に調査に入ったが、それは地雷原を踏み分け、落とし穴をよけながらという危険な状況で、マリアアの嵐が吹き荒れており、難民キャンプには遺体を焼く匂いがたちこめていたという。

かつてカンボジアは、アンコールワットに代表されるクメール文化の中心であったが、七十年に始まった内戦によって多数の寺院が破壊され、僧侶は虐殺され、書物も焼き払われるなど、壊滅的な打撃を受けていたのである。

山田委員長が出会ったソン・サン元カンボジア首相は「私たちは今、武器が欲しい、食料や衣類が欲しい。しかし宗教者に、そのようなお願いはできない。その代わりに崩壊したクメール文化の復興に

難民の声に支えられて

過ぎて、カンボジア情勢は安定をみている。そして、この長い年月を継続して活動している難民委員会委員は山田委員長だけとなった。更に、同委員長は、アフガニスタンにおいても教育支援活動を行うなど、紛争地域の支援活動を積極的に展開している。9・11テロの時には、タリバン政権当時のアフガニスタンに滞在しており、生命の危険にさらされることも、しばしばであったが、山田師は「恐怖を感じたことはない。弱者の側に立つて、正しいことを行っておれば、必ず御仏の加護がある。実は、救援活動を支えているのは、私たちではなく、

協力して欲しい」と訴え、支援活動は、救援物資はもとより、教科書や仏教書などクメール文化復興の基礎となる書籍の復刻と教育支援から始められた。当時からすでに二十数年が

難民の人々の『ありがとう』の声なのだ」と語る。また、平和友好賞の選考経過を報告したカンボジアのチョー・イム宗教省次官は「政府のみならず、カンボジア仏教徒全ての心を込めた」と語っている。更に、六月四日、渡邊恵

今年度の戸津説法師に

進座主は「天台座主への登竜門」と呼ばれる本年度の戸津説法師に山田師を指名した。戸津説法は八月二十一日から

天台トピックス

8月3日～5日 第39回天台青少年比叻山の集い 比叻山上・京都東山閣

8月18日～19日 母と子の比叻山研修会 近江白浜・白楽荘

デスクから

ニューヨーク別院地鎮祭記事にあたっては、同別院の寺田豪淳師はじめ、天台宗海外伝道事業関係者、また関係各位に御世話になった。深謝 ●自ら仏像を刻む古宇田亮文自性院住職取材するつもりが「私の師匠を紹介しましよう」ということで、記者が青梅の奥地まで伊藤さんに合

いに行く。井戸水をご馳走になったとのこと。深山の桃源郷であった由●山形蔵王やすらぎの里は、駅からタクシーを使わねば行けない。運転手から「あなた、医療機器訪問販売してるんだらう」と言われる。施設まで面会に行く、けなげな家族と思われなかったのは残念●一面は、壬生部長の連載終了により来月から「素晴らしき言葉たち」を移動させようと考えてる。

コンパス

元天台宗宗務総長 杉谷義純



長崎佐世保の小学校で、六年生の少女が同級生の女の子を、カッターナイフで首を切りつけ殺害するとい

う痛ましい事件が起きた。犯人が、大人の

ろうと、いいたい。アフガニスタンやイラクでの戦争は、人に及ぼす、人が死ぬ恐れのある事故を起こす車を、平気で売りつけている会社がある。それだけでは

美名に隠れて、一方では逆に命を粗末にしている事実を見逃してはならない。

今、それほど騒がれていないが、臓器移植法の改正が問題になっている。本人の承諾がなくても家族の同意さえあれば、脳死者から臓器を摘出、移植できるよ

うにしようというのである。脳死者が出て、本人が臓器提供の意思を持って

いたかどうか確認できないことが多く、臓器摘出ができないからだ。

死とは経過であり、徐々に受け容れられていくのが本当の姿であろう。死が点

誰が命を粗末にしているのか

が勝手に想像するような不良少女でなく、ごく普通の女子児童であったため、多くの人々が余計にショックを受けたのであった。そして識者といわれる人たちが、一斉に「命を大切にす

る教育」の必要性を指摘した。だがその前に、大人たちがちっとも命を大切にしてい

ないのか、大いに疑問を持つ。

死とは経過であり、徐々に受け容れられていくのが本当の姿であろう。死が点

究などしかりだ。



カンボジアだけでなく、アフガン難民救援にも積極的に行動する山田師

各地で推進大会開催

戒とは助け合うこと — 東京大会

五月二十九日、一隅を照らす運動東京大会（杜多道雄本部長）が、九段会館を会場に開催された。三十五回目を数えた今回は、好天にも恵まれ、九百名の参加者が集った。

第一部は、上野輪王寺門跡神田秀順門主導師による法要が厳かに行われ、新たに作成した「おつとめ」を手に読経の声が会場に鳴り響いた。第二部では、仏教思想家のひろさちや氏による「仏教をどう生きるか」と題した講演が行われ、「戒律とは羅針盤

のようなもので方向付けが大切。自分が弱い人間であることを自覚することで、他人も弱い人間だと言うことが理解できる。他人を許し、助け合うことが戒である」と戒律について分かりやすく語り（写真）、参加者は理解を深めた様子であった。



菩薩としての行いを — 近畿大会

五月二十九日、和歌山県坂田ある大同寺（細川慈教住職）において、近畿本部一隅を照らす運動推進大会（澤田圓明本部長）が開催された。

大会では、延暦寺副執行佐々木光澄師を講師に迎え、「開宗千二百年宗祖伝教大師と大乘戒」と題した講演が行われ、千二百年前の伝教大師最澄上人のお姿と現代世情の様子を例にあげ、開宗千二百年慶讃大法会特別授戒の主旨と意義について述べられ、戒を授かり菩薩としての行いをしていたらとよびか呼びかけた。本堂を埋め尽くした参加者は、ユーモアを交えた講話に、時間の経つのも忘れて

聞き入っていた（写真）。また大会に先立ち、山家法要が厳修され、本館内三十六寺院住職が出仕、奉詠舞も行われた。



運動は忘己利他から — 北総大会

北総本部（湯浅真高本部長）では、六月四日、千葉県神宮寺の南蔵院（秋葉興憲住職）



を会場に、同教区山家法要に併せ、一隅を照らす運動推進北総大会が開催され、住職や檀信徒が多数参加した。山家会の報恩法要が行われたあとの推進大会では、一隅を照らす運動副会長で天台宗檀信徒会会長の藤崎勲氏が、「忘己利他こそ一隅を照らす精神であり一隅運動は、身近なところから始めましょう」と挨拶した（写真）。引き続き、山之作部・神光寺住職

5名が推進表彰受賞 — 兵庫大会

六月十日、兵庫本部（草別碩善本部長）写真）では、温泉町文化会館「夢ホール」を会場に、檀信徒総会並びに一隅を照らす運動推進大会が開催され、岡岡恵心宗議会議長、荒樋秀晃教区布教師会会長、久保智尚財務部長を来賓に迎え、住職・檀信徒合わせて二百七十名が参加した。檀信徒総会に引き続き行われた大会では、平成十六年度



の一隅を照らす運動の実践発表と表彰があり、教区内代表者が日頃の寺院護持や、地元での清掃活動について発表した。また、運動推進表彰では、檀信徒五名が表彰を受けた。

心のつどい in 比叡山

千二百年の歴史を持つ日本仏教の母なる比叡山で、「自己再発見」をテーマに『心のつどい in 比叡山』を開催します。坐禅や写経、清掃作業などを通じて、今ある自分を静かに見つめ、身も心もリフレッシュしましょう。皆さまふるってご参加下さい。

講演 日高正宏先生（神戸学院大学教授・臨床心理士）
酒井雄哉大阿闍梨（千日回峰行満行二回）

- ◎ 開催日 9月15日（水）12:00～9月16日（木）13:00まで 1泊2日
- ◎ 会場 比叡山西塔・居士林
- ◎ 参加費 一般・3500円 推進会員・3000円
- ◎ 定員 40名（先着順）※軽い運動が可能な方
- ◎ 締切 8月2日（月）
- ◎ 申し込み・問い合わせ先
〒520-0113 滋賀県大津市坂本4-6-2 一隅を照らす運動総本部
FAX 077-579-2516・E-mail ichigu@tendai.or.jp
http://www.tendai.or.jp/ichigu/

※ 参加ご希望の方は、住所（郵便番号）・氏名（フリガナ）・性別・生年月日・電話番号を明記の上、ハガキ、FAX、Eメールでお申し込み下さい。

インドで私も考えた

④

一隅を照らす運動総本部長

壬生 照道

『靴を思う』



発展途上国を訪れると、必ず五十年前の日本を見ている

ようだという。確かにインドにもそんな雰囲気はある。が

しかし、それは不幸ということではない。日本でも戦後苦

しい厳しい時代があった。食べる物や着る物がなく、何もない時代だったが、楽しみもあれば、喜びもあった。そこに幸せはあった。靴一足買って貰ったことが、何ものにも代え難い喜びだった。今では、そんなことは喜びでも何でもないが。

戦後、日本は、先ばかり見て走りすぎたのではないかと、後ろを振り返ることもなく、歩んできた道を検証することもなく、それが現代の日本人の姿だ。唯物論的な発想で、物質、科学に人生の喜びがあると思つたことに、日本人の不幸がある。宗教も否定された。みな同じがよいとされる妙な世界が生まれた。みな同じということは、平等であるということとは違う。平

（聞き手・倉田紀美子）